



鹿児島大学 (鹿児島県)



九州の南端で<日本>を学ぶ・<日本>を研究する基礎作りをしませんか！

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1) 特色と歴史

鹿児島大学は、九州最南端に位置する 9学部、9 研究科およびグローバルセンターや国際島嶼教育研究センターなどの教育・研究施設を有する国立の総合大学です。鹿児島大学が新制国立大学として発足したのは昭和24年です。はじめは文理、教育、農、水産の4学部からスタートしましたが、その後、医学部、工学部、歯学部、共同獣医学部、各種大学院等を整備して今日に至っています。

文系学部は法文学部と教育学部があり、さまざまな分野の教員が在籍しています。教員の専門分野については、本学のHPを参考にして下さい。

鹿児島へようこそ！



2) 教員・学生数等

学部生（留学生）	8,726名	(146名)
大学院生（留学生）	1,531名	(163名)
教員	1,018名	
職員	1,509名	

② 国際交流の実績

現在、学部生8,726名のうち留学生146名、大学院生1,531名のうち留学生163名が在籍しています。過去10年間の日本語・日本文化研修留学生の出身と専攻分野は以下の通りです。この中の何名かは鹿児島大学大学院への進学を希望する他、再来日して鹿児島の地元企業に就職しています。

出身…タジキスタン、スリランカ、エジプト、ブラジル、韓国、中国、ベトナム、ポーランド、ウクライナ、ラトビア、スペイン、キルギス、コスタリカ、トルコなど。

専攻分野…日本語学、日本史、日本文学、政治学、経済学、社会言語学、日本文化論など。

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2020年：留学生数310人、日研生5人
2019年：留学生数348人、日研生5人
2018年：留学生数325人、日研生3人

④ 地域の特徴

鹿児島市は人口約60万人を有し、地域の特性を生かして古くから海外との交流により発展してきた都市です。古くはフランシスコ・ザビエルの来航、また藩政時代から海外貿易に力を注ぎ、幕末には国禁を犯して英国に留学生を送るなど海外交流の歴史は古くから続いています。

桜島を目の前に眺望できる鹿児島市は、東洋のナポリとうたわれイタリアのナポリ市を始め、オーストラリアのパース市、アメリカのマiami市と姉妹都市盟約を、中国の長沙市とは友好都市盟約を結んでいます。

気候も温暖で、年間を通して過ごしやすく、生活環境、勉学環境も整い、快適な留学生活を送ることができます。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b)主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

1) 次のような研修留学生を募集します。

- 日本語能力（聞く・話す・読む・書く）をさらに伸ばしたい人。
- 日本文化や日本文学、日本社会、異文化コミュニケーションを中心に総合的に学びたい人。
- 鹿児島地域の文化、歴史に興味を持ち、研究テーマとして発展させたいと考えている人。

2) 本学のコースは、このような研修留学生を対象に、その留学生の日本語能力に応じたきめ細かい指導を行っています。また鹿児島地域の歴史・地理・文化を学んだあと、実地研修や地域の人との交流活動を行い、より深く日本・鹿児島を理解できるプログラムを目指しています。

③ 受入定員

7名（大使館推薦3名、大学推薦4名）

④ 受講希望者の資格、条件等

次の(a)及び(b)の条件を満たしている者が、このコースを受講できます。

- 外国の大学に1年以上在籍し、日本語または日本の文化、文学、社会等に関する分野を主として学習している者。
- 日本語能力試験のN3以上に合格または同等の能力を有する者。

⑤ 達成目標

日本語能力試験で、来日時より 1つ上のレベルの合格を目標とします。また、日本語によるポスター発表、修了レポートの作成を達成目標としています。

⑥ 研修期間（在籍期間）

2021年10月1日 ～ 2022年8月31日

修了式は8月を予定（2020年は8月24日に開催）

⑦ 奨学金支給期間

2021年10月 ～ 2022年8月

⑧ 研修・年間スケジュール・

9月下旬：渡日

10月： 秋期オリエンテーション

11月： 大学祭

12月： インターナショナル・ナイト

4月： 春期オリエンテーション

8月： ポスターセッション、修了式

8月下旬： 帰国（2020年は8月27～30日頃）

※コロナウイルス感染症の拡大により変更の恐れがあります。



⑨ コースの修了要件

規定の単位を取得し、日本語ポスター発表及び修了レポートを提出することが条件です。コース修了時には修了証を発行するとともに、受講した科目については成績証明書を発行します。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

授業は原則として、I期・II期各15週間開講します。

留学生の日本語力、留学目的に合わせて〈日本語能力向上コース〉と〈日本語・日本文化研究コース〉のどちらかを受講します。コースの選択については、プレースメントテストの結果をもとに、グローバルセンターの教員と相談して決めます。

〈日本語能力向上コース〉

日本語力に応じてグローバルセンターの日本語科目や文化の科目を中心に受講します。

科目群	科目数	単位・時間数
日本語科目	6科目	10単位 300時間
文化学修科目	2科目	4単位 60時間
修了レポート ポスター発表	2科目	4単位 120時間
自由選択科目	2科目以上	2単位以上 60時間以上
参加型科目	1科目	単位なし 60時間
コース修了に 必要な単位と時間	13科目	20単位 600時間

1) 必須科目

プレースメントテストの結果に基づいて指定されたレベルの科目を受講してください。授業は、すべて日本語で行われます。

日本語学修科目

会話：場面や相手に応じた会話のスタイルを学ぶ。

読解：読解に必要な技術を学ぶほか、要約、発表資料作成などを行う。

作文：レポート、論文作成の基礎を学ぶ。また先生や目上の人に送るような、やや改まったメールの書き方を学ぶ。

文化学修科目

日本社会と文化 異文化理解

修了レポート、ポスター発表

- ・各自テーマにそった修了レポートを作成
- ・修了時に、日本人学生や地域の人を招いてポスター発表を行う

2) 選択科目：科目例

総合日本語（30時間）

日本語ワークショップ（30時間）

Intercultural Communication for Global

Citizens（30時間）

〈日本語・日本文化研究コース〉

グローバルセンターの日本語科目の他に学部の専門科目、共通教育の文化学修科目を受講します。

科目群	科目数	単位数	時間数
日本語科目	2科目	2単位	60時間
文化学修科目	1科目	2単位	30時間
修了レポート ポスター発表	2科目	4単位	120時間
自由選択科目 専門科目	8科目以上	16単位以上	240時間以上
参加型科目	1科目	単位なし	60時間
コース修了に 必要な単位と時間	14科目	24単位	510時間

1) 必須科目

日本語科目：共通教育科目

日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語Ⅲ 日本語Ⅳ

大学生活に必要なアカデミックジャパニーズを学ぶ。

文化学修科目：日本事情A、B

文化の定義、慣習とマナー、鹿児島県の歴史、次代と文学、異文化サバイバル、留学論、地理、教育、政治、伝統、宗教、昔話、現代文学、人間関係論などを扱う。

修了レポート、ポスター発表

- ・指導教員の指導のもと、各自の専門分野の研究を行い、レポートを作成する。
- ・修了時に、日本人学生や地域の人を招いてポスター発表を行う。

* レポート集を作成して鹿児島大学のHPに掲載します。

2) 選択科目

自分の専門分野に関する学習・研究のために、所属する学部などで開講されている授業科目について、指導教員と相談の上、受講する科目を決めます。

科目例

多言語文化論演習（30時間）

多文化交流論（30時間）

言語行動論（30時間） 国語学概論（30時間）

日本語能力向上コース
 〈日本語・日本文化研究コース〉共通

3) 見学、地域交流等の参加型科目
 多文化共生の地域づくり (30時間)

特定の地域をフィールドとし、地域活性化策について日本人学生と共に調査研究および提言を行います。講義、ディスカッション、フィールドワークを経て最終プレゼンを行います。

地域行事への参加 (単位なし)

地域の国際交流行事に参加し、国の紹介などを行う他、参加レポートを作成します。

4) 日本人学生との共修の機会

共通教育科目ではアクティブラーニングを推奨しています。授業の中で日本人学生とディスカッションをしたり、プロジェクトワークを行ったりします。

アクティブラーニングが授業に占める割合はシラバスに記載されていますので、事前に確認することができます。

また、授業以外に留学を希望する日本人学生と、相互の言語や文化を学ぶための活動を行っています。

① 指導体制

1) プログラム実施委員

氏名(職名)	所属	専門
和田 礼子 (教授)	グローバルセンター	日本語教育 日本語文法
中島 祥子 (准教授)	法学部	日本語教育 異文化理解教育
梅崎 光 (准教授)	教育学部	国語学 日本語の歴史
酒井 佑輔 (准教授)	法学部	地域研究・社会教育 (Non-formal Edu)
市島佑起子 (講師)	グローバルセンター	日本語教育 社会言語学

2) 指導体制

研修留学生の専門分野に応じて、教育学部・法学部の教員の中から指導教員を1名定め、学習・研究上のアドバイスを行っています。生活面の指導については、グローバルセンターと連携しながら行います。

■ 宿 舎

・鹿児島大学内の留学生用の宿舎

国際交流会館 (郡元キャンパスから徒歩20分)

単身室 25,000円/月

※光熱水費が別に必要です。

※部屋の割り当てについては希望に添えない場合があります。

※電子たばこを含め敷地内は禁煙です。

年度	人数	宿舎入居状況
2020年度	5名	国際交流会館へ入居予定
2019年度	5名	国際交流会館へ入居
2018年度	3名	国際交流会館へ入居

・過去3年間の日研究生の入居状況 (各年度10月現在)

外観イメージ



■ 修了生へのフォローアップ

日研究生が帰国した後も、プログラム実施委員が必要に応じてメール送受信を行っています。

また、鹿児島大学 Newsletter を送付します。

[修了生の進路(例)]

- ・日本や母国の大学院へ進学
- ・日本に再来日して就職
- ・母国で日本関連企業に就職

■ 問合せ先

<担当部署>

鹿児島大学学生部国際事業課

住所: 〒890-0065

鹿児島県鹿児島市郡元一丁目21番30号

TEL: +81-99-285-3015 (直通)

FAX: +81-99-285-7083

Email: ryugaku@kuas.kagoshima-u.ac.jp

<ウェブサイト>

鹿児島大学グローバルセンター:

<http://www.gic.kagoshima-u.ac.jp/>

鹿児島大学:

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/>

